

「阪神高速 未来へのチャレンジプロジェクト」 第 3 回助成・事業実施報告書

1. 基本事項

| | | | |
|--------------|--|-----|-------|
| 団 体 名 | 特定非営利活動法人関西 NGO 協議会 | | |
| 事 業 名 称 | グローバルな社会課題への探究機会と課題解決のためのユースチームの組織化 | 助成額 | 50 万円 |
| 申請事業の概要 | 「若い世代」が、阪神地域のグローバルな課題について探究するための国際協カスタディツアー等を企画し、仲間を募る。その後、共通の課題意識を持ち、課題解決を目指す持続可能なユースチームづくりを伴走支援する。 | | |
| 申請事業の目的 | 社会課題の探究を通じた国際協カローカルスタディツアーの実施と課題解決のためのユースチームの組織化 | | |
| 関連する SDGs 目標 |  | | |

2. 助成事業の実績・成果等について

事業全体の成果：大学生を中心とする若い世代と課題探究やフィールドワークに取り組み、ユースチームの組織化を進めることができた。当初の目標の 60%を達成した。（未達の理由は、事業期間内にユースチームによるスタディツアーの開催には至らなかったため。）

具体的な成果① 大学生を中心とする若い世代の**ユースチームの組織化**ができた。具体的には 2 名の大学生が中心となり、13 名がチーム登録済み（登録はしていないが、情報提供希望者は 15 名）。

実施内容① 地球規模の課題解決に関心を持つユース向けに、NGO の事務所に訪問し、活動を聞き、意見交換を実施するフィールドワークを 2 回、国際協カに関するイベント（ワン・ワールド・フェスティバル for Youth、JICA 秋祭り）への参加を 2 回、オンラインでの交流会（定例ミーティング）を 6 回実施した。企画や調整にはユースメンバーがコミュニケーションツールである Slack を活用し、イベント情報の連絡や互いのコミュニケーション機会を創出。個別でのキャリア相談対応なども行い、これらの取り組みがユースチームの組織化へとつなげることができた。関西 NGO 協議会は、中心となる 2 名の大学生をインターンシップ生として受け入れ、活動への助言や運営をサポートして、ユースチームの組織化を伴走した。



具体的な成果② ワン・ワールド・フェスティバル for Youth を通じた**ユースと NGO や国際機関の連携を促進した。**

実施内容② 12 月に高校生・大学生世代を対象にしたワン・ワールド・フェスティバル for Youth を実施。70 名の参加と 42 名の出展関係者、計 112 名の参加となった同イベントでは NGO や国際機関による気候変動や人権等、様々なテーマによるブース出展が行われ、ユースが地球規模課題を学ぶだけでなく、実際に取り組み NGO 関係者との関係性を構築する機会を提供した。また運営ボランティアもユースで構成し、運営側で参画する機会を提供した。結果として大阪の高校生

だけでなく、福島の高校生の参加もあった。参加したユースからは「SDGs や世界のことについて知らないことをたくさん知った。いろいろな人の考え方や思いに触れることができた。」「同じ SDGs の目標を持っている人が様々な分野からアプローチしているのを感じられた。」「自分の知らなかったことをたくさん知ることができた。」などの感想があった。



その他 当事業は、企画に協力予定だった団体が能登半島地震の対応により、本事業に関わることができなくなったことや事業担当者の休職と退職、台風によるイベントの順延、協力団体の体制変更による方針転換など申請時からの想定が内外で大きく変更する中で、できる限りの取り組みを検討、実施してきた。

3. 課題分析や今後の発展性

【課題】ユースチームの持続可能性

① 中心メンバーの育成

2024 年度に立ち上がったユースチームを持続可能なチームにするために、定期的なミーティングやイベントを実施していくが、その活動の中心となるメンバーの研修や育成機会を増やし、自主性を高めたチームへと発展をさせていきたい。ひとつのビジョンとして、JICA 関西が中心となり活動を展開する関西 SDGs プラットフォームの分科会をユースチームで立ち上げるなど、より開かれた自主的な活動を目指していく。

② 新規メンバーの巻き込み

国際協力に関心を持つ若い世代が活動に参画し、具体的な議論や活動ができる環境をつくり、ネットワークを広げていく。そのためにも具体的なイベントや当事業で予定をしていた複数日開催するスタディツアー（合宿）を検討していきたい。

③ 資金の確保

今後は関西 NGO 協議会の枠組みを超えて自主的に活動を続けていくための資金源の確保が必要になっている。ユースチームを応援する企業の協賛など、トビテ留学 JAPAN の活動を参考に自主財源の確保を目指していきたい。

【課題】伴走をする関西 NGO 協議会の体制の脆弱性

関西 NGO 協議会は当事業の申請時有給専従職員が 4 名だった体制から、現在は有給専従職員が 1 名、非常勤 1 名、インターンシップ 2 名の体制になっており、団体自体の運営が厳しい状況が続いている。当事業の伴走を継続させるにあたり、新しい職員の確保等、団体自体の組織基盤強化が大きな課題になっている。ユースチームの今後の展開を支えるべく関西 NGO 協議会自体の体制の強化が急務となり、継続して理事会を中心に改善を進めている。

4. 代表者又は担当者からのひとこと

この度は、ユースチーム育成に向けたご支援をいただきありがとうございました。

おかげさまで毎月の定例ミーティングや NGO の活動地へのフィールドワーク、イベント開催・参加を通して、2 名の大学生を中心としたユースチームが出来ました。当事業を進めるにあたっては団体内の体制変更だけでなく、協力団体の方針転換や自然災害による変更など多くの障壁があり、申請時の計画通りに進めることができない内容もありましたが、それでもユースの高い探究心と行動力によって、オンラインでの交流会、NGO の活動現場を見学するフィールドワーク、国際協力を学び、事業実施者と出逢うためのイベント開催など、様々な機会をつくり、結果としてチームができたと考えています。

2025 年は情報交換や交流だけでなく、イベントの参加や登壇、研修機会をつくっていききたいと思います。そして持続可能性を検討し、ユースチームのさらなる進化を伴走し、次世代を担う人づくりに取り組んでいきます。

担当 特定非営利活動法人関西 NGO 協議会 事務局長 栗田佳典